



令和4年度茅野市民館主催事業「茅野市民館をサポートしませんか2022」
演劇の種 育てましょ！ “演劇で遊ぶ” クラブ活動やってます！
「絵からはじめる劇づくり部」



茅野市民館サークル
Chino Cultural Complex Circle

企画：NPO法人サポートC
主催：茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造



みんなのヒラメキ
みんなでカタチに Support

助成：一般財団法人 地域創造

茅野市民館をサポートしませんか 2022

演劇の種 育てましょ！ “演劇で遊ぶ” クラブ活動やってます！

絵からはじめる劇づくり部

絵からはじめる 発表会

え？

いよいよ

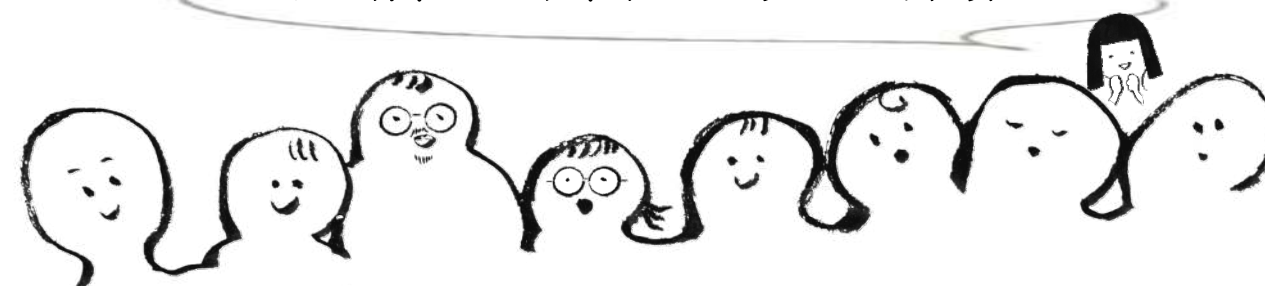
ビバ！
プリミティブ！

さてさて一体
どうなるか？

2023年3月26日(日) 11:00

茅野市民館 マルチホール

点と線、墨と紙、何かがうごめく世界



みんなでやったこと

みる人の脳内で
つくられるんだ

12/14 (水)
舞台美術①
墨で
点と線を描く

1/19 (木)
舞台美術②
墨で描いた
点と線をつかって
絵本をつくる

みなさんの頭の中も
見てみたい！

手が墨でまっくろ〜

3/11 (土)
舞台美術③
・長峰さん作成のエレベーション、道具帳
を紹介
・「太陽」「雲」の土台をつくる
・道具帳をもとにダンボール、紙、墨で舞
台美術をつくる

3/12 (日)
舞台美術④
・道具帳をもとにした
舞台美術づくり

3/18 (土)
舞台美術⑤
・道具帳をもとにした舞台美術づくり
の続き
・できた材料を大道具に組み立てる

3/23 (木)
合同②
・舞台美術をまじえて
全体のシーンづくり

3/24 (金)
合同③
・舞台美術をまじえて
全体のシーンづくり

3/25 (土)
合同④
・舞台照明、音響を合わせ、
リハーサル



2/10 (金)
合同①
・劇づくりの進め方について
・いくつかの絵本をみてる
・柏木さんから演出についてのお話
・部員さんからひとこと

1/27 (金)
演劇①
「プロのあたまのなか」
をのそいてみる
台本と演出って？
ワークショップって？
アイデアはどうやって
出てくるの？
のおはなし

3/3 (金)
演劇②
・柏木さんの台本プレゼン
・「こうなったらいいな」を
話し合い、みんなで共有

ぶる〜ん、ぶる〜ん
ひゅーう、ひゅーう
シャカシャカ…

3/10 (金)
演劇③
・第2場「粘菌人類」のオノマトペ
を考え、録音
・第3場「禅問答」を考え、みんな
で共有
・録音したオノマトペでつくった3
曲を聴く

3/16 (木)
演劇④
・第2場「粘菌人類」
のシーンづくり

3/17 (金)
演劇⑤
・第1場「生命が生まれる」のシーンづくり
・第3場「禅問答」の内容を確認して、台詞
を読んでみる

3/26 (日)
合同⑤
発表会をして、
その後、ふり返しをした。
みなさん、お疲れ様！



講師の感想

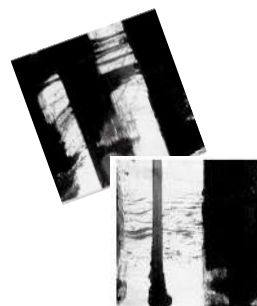


柏木 陽

今回の企画は難航を極めた。アーティストの頭の中を見たい、そんな無茶な要求にどうやって答えたら良いのかだいぶ悩んだ。

ほとんどの判断は直感からくる。直感を説明することは難しい。説明できないから直感と呼ぶのだと思う。直感に基づいた指示をすると時々「なぜこのようにするのか？」という質問が来る。質問にはなるべく答える。出来れば論理的に、理屈として納得してもらえるようにがんばって答える。そうするとこの人には答えがある、理屈があると勘違いされることがあるようだ。判断には理屈はない。その判断を納得してもらうために理屈を作り出す。大事なのは私の判断に対する信頼をどうやって作っていくのか、ということの方だ。なのでがんばって答える。

今回はがんばって答える方がメイン。普段は話さないようなことを話したつもり。話したことはすべて私の場合だということを前提として聞いてほしいと思う。私は実践家なのでセオリーとは無縁なので。



3月24日。午後のワークショップまでしばし時間があつたので、諏訪大社へご挨拶に。

いきなりの御柱登場にノックアウト、境内の空間に4本配置されているようだ。

山の神様が住んでいるような神聖な空気。

本殿にご挨拶をして赴くままに歩いていると、神楽殿に大太鼓が二台。これもしかして月と太陽？

柱に月と太陽。今回ワークショップで作ったセットとリンク。呼ばれたなわたし（笑）という不思議な出来事がたまにおこるのです。

点と線からはじまったストーリーがどこに行き着くかはまだ謎ではあるが、あきらかにこの縄文の土地からうまれた素晴らしい何かがおこることは間違いない！ プロ市民のエネルギー然り！！

ここにはプリミティブな創作の原点とそれを支える器がある。

4本の柱が立つとそこは祝祭空間にもなる。

この土地には自然とくらしのなかに異次元ヘトリップできる劇場ともいえる空間があふれている。



長峰 麻貴



宮本 洋平（道具）

いろいろお世話になりました。

